

「ベトナム 2024 年を迎え」

中川 良一

＜今年の旧正月：テト＞

ベトナムでは旧暦で新年を迎えるため、2024 年は 2 月 10 日が旧暦の元旦となり、ベトナム旧正月休暇は、2 月 8 日（旧暦 12 月 29 日）から 2 月 14 日（旧暦 1 月 5 日）まででした。

新年のカウントダウンの行事では、全国の多くの市や省で、音楽祭などのさまざまな行事が行われ、花火も打ち上げられます。ベトナムでは、長い間一般市民の花火利用は禁止されており、独立記念日（4 月 30 日）、建国記念日（9 月 2 日）、旧正月などの行政が実施する特別な行事にのみ利用されてきました。しかし、2020 年 11 月 27 日に政府により、花火の管理、使用に関する政令 137/2020/ND-CP が発行され、2021 年 1 月 11 日より規制が解除され、国防省傘下の Z121 工場にて製造された花火は、一般国民にも提供出来るようになり、花火販売許可を持つ全国約 400 店舗にて購入が可能となりました。しかし、その生産量は限定的で、国民ニーズに十分応えるだけの量は市場に供給されていません。価格は種類にもよりますが 30 万～40 万ベトナムドン（約 1,700 円～2,400 円）、最高で 45 万ドン（約 2,700 円）です。

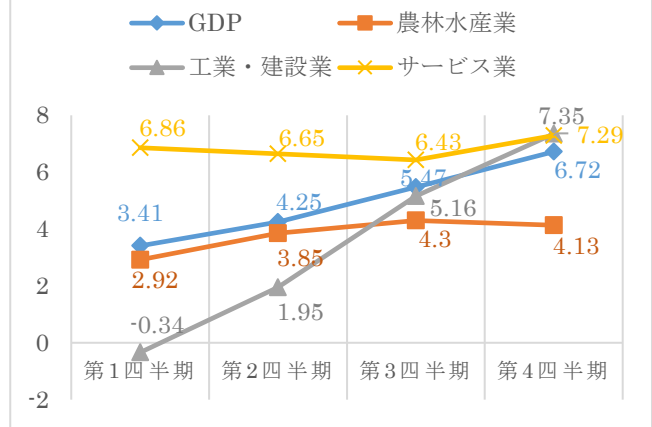
＜2023 年ベトナムの経済を振り返る＞

世界秩序混乱によるビジネス界への影響が、東南アジア各国にも影響を与えていますが、その中でもベトナム経済は堅実さを示し、世界でプラス成長を保持する国の一つとなりました。現在の価値で 2023 年 GDP 規模は 10,221.8 兆ドン（4,300 億 US ドルに相当）に達したと推定されています。また 2023 年の一人当たり GDP は 1 億 190 万ドン（4,284 ドルに相当）に達し、2022 年比で 160 ドル増加しました。統計総局の報告書によりますと、2023 年第 4 四半期の GDP は前年同期比 6.72% 増加すると推定されており、2012 年～ 2013 年および 2020 年～2022 年の第 4 四半期より高くなる予定です。

＜外国投資状況＞

世界的なサプライチェーンの再構築などにより、ベトナムは工業、農業、ハイテクサービス分野において、世界でも有望な投資先として注目されていますが、

2023 年の GDP 及び産業別の四半期別伸び率



(出所：統計総局)

2023 年 1 月～12 月 20 日までの外国企業による新規登録投資額は 201 億 9,000 万ドルに達し、新型コロナウイルスが流行する以前（2019 年：167 億 5,000 万ドル）を上回りました。

しかし、日本からの新規投資は 302 件、認可額 28 億 5,600 万ドルで、外国投資国の第 5 位まで落ち込みました。この中には、12 月に認可された液化天然ガス (LNG) 火力発電所案件（19 億 9,000 万ドル）が含まれ、日本の新規投資認可額の 7 割を占めています。つまり火力発電所案件を引くと、認可額は 8 億 6,600 万ドルとなり、韓国の投資額（18 億 4,100 万ドル）の 2 分の 1 まで落ち込んでいることがわかります。また発電所案件を除く日本からの新規案件 301 件による平均投資額は 288 万ドルとなりますが、韓国の新規案件 1 件当たりの平均投資額は 390 万ドル、中国は 501 万ドルと大きく異なり、これは日本からの新規投資が小型化していることを示しています。反面、日本企業によるベトナム企業買収 (M&A) は過去最高額となり、また既存のベトナム日系企業による拡張投資も順調で、日本の各種投資を合算すると、世界で第 2 位の上位国を維持しています。2024 年も引き続き、日本からの新規投資は、日本への輸出目的とする製造案件は影を潜め、ベトナム内需あるいは周辺諸国への輸出やサービス提供を目的とした投資が主軸となることが予測されています。